

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 #####

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672200120
法人名	KEITOKU GROUP(株)
事業所名	グループホーム かいもん
所在地	鹿児島県指宿市開聞十町1330-1 TEL 0993-27-2110
自己評価作成日	令和2年1月16日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご本人様の残存機能を活かした作業を、本人の役割として参加して頂く事を基本としており、家庭的な雰囲気を損なわないような環境作りに努力している。
・「今日も笑って過ごしましょう」を合言葉に一日の生活が始まり、利用者様が孤立する事が無い様、常にスタッフが声掛けしており自由に過ごされている。
・利用者様とご家族の関係を大切にしており、面会を通じて会える喜びや安心感を持って頂けるようにしている。
・利用者様とご家族のお役に立てたらという思いで、試行錯誤を重ねながら諦めない介護を目指している。

ホームは、指宿市開聞支所から数百メートル離れた地域に同法人の有料老人ホームや障害者福祉施設に隣接して設置されており、周辺には、小学校や金融機関、郵便局、Aコープ、医療機関、美容室、個人住宅等が立ち並んでいて利便性は良い。ホームからは雄大な開聞岳が間近に眺められ、利用者は周辺の作物、草花等から四季を感じながら平穏な日々を過ごしている。

開設以来、地域との交流を大切に取り組んでおり、自治会に加入して地域の「ほぜ祭り」の稚児行列を見物したり、施設見学及びボランティアの受け入れ、友人知人の来訪、散歩や買い物時の会話、農産物を頂くなどの交流は利用者の楽しみとなっている。日常的に寄せられる地域の人からの高齢者福祉に関する相談等には専門性を活かして助言に努めている。

管理者及び職員は理念に沿って、利用者が地域や家族と触れ合いながら、その人らしい安心した暮らしとなるよう日々努めており、「今日も笑って過ごしましょう」を合言葉に、利用者の尊厳や人格を大切にしながら想いの把握に努めて支援している。入浴などの日課や余暇時間のレクリエーション等の取り組みも、無理強いしないで利用者の主体的意向に添って柔軟に対応しており、計算ドリルやことわざゲーム、ぬり絵等は生きがいや楽しみになっている。

管理者は、職員との協力体制や信頼関係の構築が大切と認識して、自らも積極的に現場の業務に従事しながら気軽に意見を言い合える関係づくりに努めている。出された意見や個人的事情等に十分配慮しながら運営やサービスの質の向上を図るなど働きやすい環境の整備に取り組んでおり、職員の定着率は良い。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員全員で、理念を作り上げ、毎朝復唱し、理念の共有をしている。	「利用者と地域社会との繋がりを大切に」「その人らしく安心して笑顔で過ごせる生活」の支援を「思いやりを持ってゆとりあるチームケア」を理念に掲げ、事務所、ホール等に掲示すると共に、毎朝唱和して共有を図っている。日々のケアの中や職員会議などで振り返りを行い「今日も笑って」を合言葉に理念に沿ったケアに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会や行事等、地域の方にも積極的に声かけしているが、地域行事に参加するには、利用者の高齢化もあり難しくなっているのが現状である。	利用者の重度化で全員での外出は難しくなっているが、地域の稚児行列を見物したり、散歩時には地域の人々との会話や、踊り、楽器演奏のボランティア、中学生の体験学習、施設見学等を積極的に受け入れるなど工夫して交流を図っている。また、自治会の回覧板で地域の情報を把握し、ホームの情報も発信しており法人主催の夏祭りには地域住民の参加が得られている。地域の人からの認知症ケアや高齢者福祉に関する相談にも丁寧な助言に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議を通して参加された方や面会に来られた家族に対しては行われているが、地域に向けてはできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催しており、そこで行事やサービス内容に関しての報告やご意見を頂いている。	会議は、利用者、元公民館長、市開聞支所職員等が出席して定期的に開催しており、利用者の状況やホームの活動、ヒヤリハット等の報告を行い、委員からは感染症に関する意見や地域の高齢者の情報が出されている。今後は家族の出席が得られるように工夫し、家族からの意見をサービスの向上に反映したいとの意向である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村担当者、区長さん、利用者に出席してもらい連携を図っている。	市担当者には運営推進会議に出席してもらおうと共に、電話や訪問で運営や各種制度手続きの相談を行って助言・指導を受ける等、日頃から協力関係を築いている。市地域包括支援センターとはケアマネジャー資格を持つスタッフを中心に主体的に連携を図っている。市主催の会合や研修会にも出席して、サービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会にて、拘束について学んでおり、また実践に活かしている。	身体拘束に関しては運営規定や重要事項にも明記し、計画的な研修の実施や委員会の中で言葉づかいやケアの振り返り、具体的な事例による研修、意見交換等を行い、拘束のないケアに取り組んでいる。日頃から身体拘束、高齢者虐待に関する報道を話題にして職員の認識を深めている。外出したがる利用者には対話や寄り添い、散歩への同行で安定を図るなど、自由な暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて、虐待事例等を周知し、施設内での虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて、学ぶ機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、利用契約、同意書等書面に基づき十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会がある方は、その都度、状況報告をし、遠方のご家族には電話やメールにて意見や要望を聞いている。	利用者の想いは日頃のケアの中での対話や仕草等から理解に努め、家族からの意見、要望は来訪時の対話や電話、メール受信時に利用者の近況を伝え、併せて意見を述べ易いように工夫して把握している。出された意見等は申し送りや職員会議、ユニット会議等で協議して、運営やサービスの改善に取り組んでおり、理解を得るため内容は家族にも報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議で職員からの意見や提案を聞き、ケアや業務に反映している。	管理者は、日頃からコミュニケーションに努め、職員会議や日頃の業務の中、申し送り等で意見や要望を把握し、協議して改善を図っている。また、日常的にケアに関する助言指導に努め、必要に応じて個別面談で悩みや個人的事情も把握して勤務シフトに反映させる等、信頼と協力関係を大切にしたい働きやすい職場環境づくりに取り組んでおり、職員の定着率は高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいようにアットホームな雰囲気や笑顔絶やさない環境作りに努めている。また、代表者も現場に入っているため職員の努力を見守り把握している。勤務状況も把握し疲労をためないように配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加できる研修は全員受けてもらうようにしている。会議は全員出席し、その時に研修内容の報告をする。また、毎月勉強会を実施しており、ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状、同業者との交流は図れていないので、今後、交流する機会を作っていきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、御家族と話し合う時間を設け本人等の不安・考え等を聞き、安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に訪れた時に、本人の状況はもちろん、家族が何を思い希望されているのかを聞き取り、信頼関係を築く事に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者さんや、ご家族に入居前に見学してもらい、できるだけ、利用者・ご家族の希望に添えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできる事はなるべく自分でしてもらっている。また一緒に過ごすことによって、学ぶ事や気遣ってもらうこともあり、支え合う関係を築いていけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一万の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と情報交換を密にして、一緒に支えていけるよう配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方者とは電話で話す機会があり、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。	入所時の意向や日頃の利用者の思い出話、家族からの情報等で馴染みに関する情報を共有し、意向に添って散歩や買い物、一時帰宅、外食、地域行事、法事への出席等に家族の協力を得ながら出かけている。家族、友人等の来訪時には、ゆっくり面談できるようにお茶や場に配慮し、電話や手紙の取り次ぎや請求書に写真を添付して近況を伝える等、関係の継続に努めている。定期的な園便りの発行を検討中である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性もあるので、ホールの席等、相性を考慮した配置にするなど工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、御家族等の連絡・相談があれば支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族と話しながら、本人の希望を優先している。	利用者の思いを日頃の会話や表情等で把握し、生きがいのある、笑顔に満ちたその人らしい暮らしとなるよう家族と連携して取り組んでいる。レクリエーション等の活動も強制しないで利用者の意向を尊重し、利用者が希望する趣味（ぬり絵、計算ドリル、ことわざゲーム他）や家事（食器拭き、洗濯物たたみ等）の取り組みも、心身の状況に配慮しながら個別の支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、来設時にご家族から、希望や話を聞き情報収集したうえで把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自、自分のペースで過ごされており、毎日のバイタル測定等で心身状態の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議にて各利用者の状態についてケアの方針や関わりについて意見をだし、必要時プランに反映している。	本人・家族の意向や診療情報提供書や受診時の主治医の指示を共有し、毎月のモニタリングやケア会議での意見を基に利用者主体の介護計画を作成している。支援の状況は日報やバイタルチェック表、支援経過等に詳細に記録して共有を図り、利用者の状況変化に応じて計画の見直しや修正を行って改善に取り組んでいる。計画の内容は家族にも説明して同意を得ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護支援記録に様子や日々の変化などを記録しており情報共有に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診で家族が対応できない時など、状況に応じた対応を家族と連絡を取り合いながら取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 —八ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問を受け、楽しく話をされている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前からのかかりつけ医を継続している。	かかりつけ医は本人及び家族が希望する医療機関での受診を継続している。定期的に主治医(精神科を含む)の訪問診療や通院等が実施され、他科受診についても家族と連携して同行している。日頃から利用者の健康管理を徹底し、家族とは密に連携を図っており、協力医療機関とは24時間連携の体制を構築して適切な医療を受けている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日々の関わりの中にとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の際、事前に看護師が来られるため、何でも相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時に看・介護サマリーを提供し情報交換を行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては、今のところ行っていないが、必要になった場合は、主治医・ご家族とカンファレンスを開催し対応していく。	重度化や看取りについては、ホームの対応を入所時に本人、家族に説明して理解を得ている。重度化した時点で主治医及び家族と話し合いを行って、ホームで可能な限りの支援に努めているが、これまで看取りの実施は無く、殆んどが入院又は有料老人ホーム等への入所になっている。急変や事故発生時は協力医療機関に救急搬送している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。勉強会を実施し、マニュアルに沿って行動できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	社内研修にて、非常災害の勉強会を行い防災に関して学ぶ機会を設け、理解を深めている。	年2回夜間を含む火災発生を想定した防災訓練を消防署の協力を得て実施している。消火器やAED等の使用方法の研修を実施し、日頃から避難経路や通報等の確認に努め、週1回の大掃除には電気製品やコンセント等を丁寧に清掃して火災を予防する等、防災への意識を高めている。スプリンクラーや火災通報装置を設置し、懐中電灯、ラジオ等を備え水や食料品を備蓄しており、隣接の有料養護老人ホームや障害者施設職員とは協力体制を構築している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格・プライバシーを尊重し、声かけ・態度・介助の仕方について職員間で確認し話し合いながら最適な対応が図れるよう支援している。	プライバシーの保護や個人情報の取扱いについては、計画的な研修で理解を深めている。尊厳や誇りを傷つけるような言動を行うことのないように職員間で常に留意し、不適切な言動には、その都度、助言しあって改善を図っており、入浴や排泄時の声掛けやケアに際しては特に配慮している。トイレや浴室、居室等はプライバシー保護に配慮された構造で、ケアに関する台帳類は事務室で適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がしたい事の希望や思いを普段の会話から引き出せるように心がけ、自分で決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に、美容師さんに訪問してもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を考え、季節に合わせたメニュー作りを行なっている。	栄養バランスや嗜好、形態、アレルギー、季節感、代替品等に配慮して調理しており、おせちや年越しそば等の行事食やクリスマス、誕生日のケーキ、手作りのおやつなど食事が楽しみになるよう工夫している。利用者も食器拭きや食材の下処理(ツワブキの皮むき他)などを積極的に行っている。利用者毎に食事や水分の摂取状況を把握し食前の口腔体操の実施や、利用者の状況に応じて歯みがき等も支援している。	

12

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を常に記録し、その方の状態に合わせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・食後には、声かけや見守り、介助にて口腔ケアを行い、義歯使用の方は、ポリデント使用しながら、口腔内を清潔にしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の状況に応じて、声かけ・誘導・見守り・介助を行い、自立に向けた支援を行なっている。	利用者毎に排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。一人一人の状況に配慮した介護用品やケアを、介護計画に反映させて改善に取り組んでおり、おむつ使用からリハビリパンツやパットに変更になるなどの改善が見られている。ほぼ自立に近い利用者には、過度な支援にならないように、さりげない見守りや言葉かけに努め、便秘予防に植物繊維の多い食材や水分、運動量に配慮し、主治医の指示も仰いで改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取状況を把握している。また、主治医と相談し、服薬にて排便のコントロールを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	その日の体調に注意しながら、入浴の支援を行なっている。	利用者の心身状態に配慮し、週3回、シャワー浴や清拭への変更も取り入れながら入浴している。好みの温度や時間、シャンプー、同性介助等は柔軟に、ゆったりと楽しめるように支援し、入浴をためらう利用者には、時間や職員の変更、声かけ等を工夫して利用者が意欲を待つように努めている。入浴時が利用者との親密なコミュニケーションの場にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度管理を行い、心地よい環境作りに努めている。また、定期的に（週1回）シーツ交換を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書をファイルしており、薬の説明、用量、副作用については職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人のできる事、好きな事を探りながら、日々の生活の中で楽しんで生活して頂けるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族へ外出依頼を行い、外出できるように支援している。	日頃の会話の中で、利用者の外出への意向を把握し、心身の状態や天候等に配慮しながら、園庭でのレクリエーションやユニット間の交流、近くの神社への初詣で、散歩、買い物、通院、一時帰宅、墓参等の外出を家族と協力して支援している。重度化が進行しているが、ドライブによる季節の花見や法人の夏祭り、ほぜ祭りの見学などホーム全体での外出を工夫してリフレッシュを図っており、利用者の楽しみとなっている	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の力量に応じて、職員や家族が不足分をフォローしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人様、ご家族より依頼があった際は、プライバシーを配慮し事務所にて電話をして頂けるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が制作（塗り絵など）した物を中心に飾っている。また季節を感じられるよう、季節ごとに壁に飾る物も変えたりと工夫している。	余裕のある廊下やホールは明るく開放感に満ち、園庭やテラスにはベンチが設置されている。雄大な開聞岳や周辺の草木が間近に眺められ、随所に活花や季節感のある展示物、利用者の作品等が飾られて和やかな雰囲気である。ホールの一角の台所からは調理の音や匂いが伝わり、テーブルやテレビ、ソファ等が利用者の利便性に配慮して設置され、清掃や空調、衛生管理等が徹底されており、利用者は好みの場所で四季を感じながら平穩に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が気兼ねすることなく、リラックスした雰囲気の中で、いつでも雑談できるような空間を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、自宅で使用していた家具等を持ってこられたり、写真や思い出の品を自由に飾る等、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	フローリングに腰高窓の仕様で明るく余裕ある居室には、ベッドやエアコン、収納棚が備えてある。利用者の意向に添って整理整頓を支援し、家庭同様に落ち着いて憩える暮らしとなるよう、使い慣れた衣装ケースやテレビ、家族写真、大正箏等が持ち込まれ、また、ぬり絵や折り紙など自身の作品も飾って、その人らしい和やかな雰囲気となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力量に応じて安全に生活が出来るよう家具やシルバーカー等、置き場所にも配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない